(明治四十一年二月二十五日第三種郵便物認可) (日刊) 日曜及祭日の翌日休刊 明治四十二年九月二日 (木曜日) 第二百三號 (一)

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●寧越の煙草

江原道寧越の煙草は古來八道に冠たるものなるが同地にて煙草栽培に從事せし某氏の談を聞くに左の如し

▲氣候 同地は我大和十津川若くは飛彈の如く山間の地にして森林に富み空氣温潤にして天候と相待ちて頗る煙草に適す唯民智幼稚にして栽培及製法貯藏法には缺ぐる所あり二年間同地にて日本種を播き日本耕作法を採りし結果は頗る佳良にして風味遠く日本産を凌駕せり

▲稅法の失策 政府が二百基に對し二圓の課稅をなせるは甚しき失策なり從來自家用に栽培せしものも未曾有の課稅に沮喪し進て栽培擴張するものなく漸く廢耕の傾向あるに至れり要するに今回の課稅法は餘りに文明的にして現今の民智の程度に合せず

▲產額 寧越郡内面以下十面に亘る耕作地に就き調査せる結果に依れば其產額は三千百八十一桶なるが農民は課稅を恐れ隱蔽する傾きあるを以て實際は五千五六百桶に達するならん

▲桶の量 一基を約五枚とし六十基を一把とし百把を一桶とす一把の量は優に紙捲煙二百四十本を製出するに足る

▲官營を要す 培養法の指導政府施設の方針等と耕作者に永解せしめんは容易の業に非ず且つ韓國は三度の收穫にして其第一期は無論優良なるも第二第三期に至れば品質劣惡最後のものは殆んど喫するに堪へず而して其一期の收穫は一基五枚なるが日本種を用ゐ日本耕作法に依る時は一回にして五十枚少くとも三十枚を採收し得故に之を官營若しくは何等かの方法を設て味蒙なる耕作者を開發するは最も急務たるを信ず云々

●南韓の教育界

▲教監會議 忠南の同會議に臨席されたる小田書記官の談に依れば廿六、七、八、三日に亘る會議中廿七日は即位紀念日なりしも午前中開會列席者は觀察使、道書記官、教育主任主事等出席數は公立普通學校四及私立普通學校二なりしが諮問議としては近く實施さるべき地方費の學事使途に關する件其他德語事項は緊急なる教育施設の件なりしが最も熱心に討議し就中注目すべきは實業教育思想の發達に關して各提出の議案が是等の施設據に重を置くものなりし事之なり

▲新教育の功験 忠清は古來兩班の巣窟とも云ふべく一種頑固的の餞慮を極めし地なるに近來新教育の結果大に地方の面目を一新し今後益開進の機運に向ひつゝあり

▲實業教育の普及 に就きて教育者及一般人も大に熱心し來れるは地方大勢の要求と解すべく從て指導扶植其道を得ば向後多くの勞苦を要せずして充分の成蹟を舉ぐるを得む

當局者も事情の許す限り之に對し力を致さん覺悟なり云々

●東拓漁業經營の認可

東拓が其附帶事業として平安海面の漁業を經營するに就きては定款に由り日韓兩國政府の認可を要するを以て此程來申請中なりし處去廿八日認可せられたり

●沿岸各所の燈臺增設

韓政府は韓國沿岸航海業者の便利を圖り今回樞要の地十六ヶ所を撰び燈臺を建設する事に決定し既に工事に着手せる所もありて尚新設地に配備すべき看守選任中なりと

●慶北延日の水害狀況

過日來の降雨にて慶北延日地方の水害は最も甚しく浸水耕地約二万斗落浸水家屋約一千戸にして浸水時間は二十時間乃至四十時に及び開花中の大豆被害甚しく平均六七割の減收を見るべしと

●新刊紹介

●婦人界(五號) 不相變優美の体裁挿畫及寫眞版の清新なるは喜ぶべし記事頗る豐富主婦は勿論若き婦人の讀物として最も有益なる雜誌也二宮翁は何故に妻を離緣せしかの一説は最も興味あり(發行所東京日本橋本町三丁目金港堂)

●貿易(八號) 内外商工業の機關として有數の雜誌也本號の讀物は岡田氏の歐洲視察談日置公使の亞爾然丁國情より觀たる對外貿易亦好箇の貿易談資料なり(發行所東京々橋區宗十郎町日本貿易協會)

▲銃獵界(八號) 今や銃獵の季節に入らんとす此時に於て銃獵界は好個の範なり好獵家一讀の必要あり(發行所横濱本町金丸銃砲店)

●韓國中央農會報(六號) 漸次編輯完備して今や韓國に於ける唯一の農業機關たり農業者に取りては最も有益の書也(發行所京城大和町二丁目韓國中央農會)

●第一銀行月報(四十七號) 銀行券貨幣流通高及貸付金等之を讀下すれば韓國經濟界の狀態は殆ど一目瞭然たり

中山大納言

第四十席 桃川燕玉演

規「イヤそれはどうも實に感服致した心懸、ま私が善い人をた前に周旋して進げるが、まアく當分私が此處に御出で、れ前のやうな人を好む人が此都には澤山居る、且つ學問の修業でもしなさるなら私が取持つて進ぜる」

彦「千萬忝ない、何分どうか願ひたい」

と茲で中川規齋と云ふ漢學者の許に足を留めて居ると、此人が周旋で彼方此方と段々世話をして呉れた、當時都には有名の學者がございます、第一皆川淇園なぞゝ云ふ人があり、或は公卿方にも頗る慷慨家の博學の御方もあらつしやる、そこで初めて此中川規齋と云ふ人から傳を以て中山大納言方へ出入りをした、中山殿は勤王無二の御方で居らつしやるから、彦九郎の志を殊の外御賞美に相成り、遠國から都に參つて學問修業を致す、都逗留中は吾が許に居れと云つて、多くは中山殿が御手許に彦九郎を御置き遊ばした。茲で當時有名の學者に懇意を致して、大阪の中井竹山、賴春水、河野恕齋、或は勝子彦なんど云ふ人と知巳になつて、學問も大分出來て參りました、で或時彦九郎が比叡山に登りまして、遙に禁闕の微々たる有樣を眺め思はず慷慨の涙に咽びまして『比叡の山登りて見れば憐れなり、手寡ほどの大宮所』といふ一首の歌を詠じました、そこで數多の公卿衆に取入りまして、專ら勤王の論を立てました、抑々高山彦九郎が勤王の説を唱へましたのは、其頃信州諏訪の湖水邊に閑居を致して居りました天龍道人と申しまする勤王家がございました、是が名代の竹内式部と云ふ人物、彦九郎は此式部の志を繼いで、再び都に勤王の論を唱へまして、諸國を往來致しました此竹内式部と高山彦九郎の間は實に漆と膠の如く、其心を以て許しましたと云ふ、此竹内式部と云ふ人は如何なる人物かと云ふと、少しく話は後へ戻りますが當時中山大納言を始めとして勤王討幕の論を立てました一人でございまして、丹波龜山の出生とも一説には肥前の産とも申します、初めて都に出でまして内裏の樣子を見ると思はず胸一杯になつて、一天萬乘の君の御住居としては誠に情ない、何んと云ふ微々たる御住居かと涙に咽んで、當時天下の將軍德川氏の天朝へ對する致方が甚だそでない、併し江戸の樣子を見なくては一概に德川が惡いとも言へまいから、是から一つ江戸へ出向いて、どう云ふ工合か能く取調べて見やうと云ふ、そこで中仙道筋を江戸表へ下向を致し、見ると驚いたのが實に江戸の繁昌一通りでございませぬ、丸の内の大名屋敷、宏々たる構ひ、京都の御公卿樣の御住居なぞは迚も論になつたものではない、竹内式部が「どうも尊い御方の御出遊ばす内裏は誠に見る影もない、臣下の分際として德川將軍の居城は實に宏大な構ひ、秦の始皇の阿房宮と云ふ程でもないが、何しろ武威盛んにして朝廷を蔑に致す、當時將軍の心得違ひ、誅む家來はないかしらと、頻りに種々の事を探索致し、彼れ此れ一年ばかり江戸表に居りました、恰度正月の元日、初登城と云ふ、之を見物に竹内式部が出掛けました、大手前へ來て見ると、成程話に聞きましたよりは尚立派やかだ、當時三百の諸侯、奇羅を飾つて初登城と云ふ、イヤどうも大手前下馬先の混雜、大名小名群衆を致し眼を驚かしまする有樣だから、竹内式部天を仰いで長歎をし『成程關東の武威盛んにして朝廷を蔑に致す、此を思へば眞に都の御住居は御痛はしい、公卿方は實に氣の毒なものだ、何と惡んでも慨ざるは今時の武士共の暴威傲慢、無禮恕すべきでないさ元憤慨悲憤の餘りに、大聲を發しまして德川將軍の事を散々に罵言した、と當時の町奉行は依田豐前守と申しまして、大岡越前守に次での名奉行であつた、其手附の者が耳に入れましたから、直ぐ竹内式部を捕へ奉行所へ引立つた、依田豐前守が段々取調べました所、元式部と云ふ人は文武の二道に達し、博學にして且能辯家でございまする、大義名分の明かなる所を奉行所に於て滔々と辯解を致し、十善帝王の御住居、且御暮し向き、德川將軍の居城、且平素行ひが天地の違ひたと云ふことを滔々と辯解を致しました、言ふ所は尤もだが、何分耳障りで捨置けないと云つて斯うと云ふ捉へる所の罪もない、そこで依田豐前守は「不屆千萬、此奴狂人だ、氣が違つて居る、浪人の分際として御公儀を批難を致す、江戸構ひを申付けるから左樣心得ろ」と云ふ考から、こんな者は江戸に置かぬが一番と云ふから、竹内式部に江戸御構ひといふ事に相成りました。



京城新報

駐韓 六師團長更代

東電によれば駐韓軍第六師團長西島中將は本月三日を以て後備に編入せられ其後任には野戰砲兵監陸軍中將大迫尙道に決定せりと。日露戰役後韓國駐劄軍として來られしは十三師團と其他の部隊なりき、當時に於ては戰時の餘波を受けて韓國民も兎角落付かず、從て社會の秩序も稍々亂然たりき然るに駐劄軍司令官長谷川大將の威望と此等駐劄軍隊の驍勇とによりて社會の綱化秩然たるに至り在韓邦人は無論韓國の四民は心を安んじたりき、實際日露戰後の韓國は芳烈無比なる我軍隊の威信によりて其安寧を保ち日韓兩國民は之が爲に其堵に安んずることを得たる也。

三十八年に於ける日韓第一協約、四十年の第二協約に於ても我軍隊の効蹟は頗る顯著にして帝國の韓國經營に於ける効蹟を擧ぐれば其大部分は軍隊の功勞に歸すると云ふも決して溢美の言に非ざる也、而して四十年の第二協約當時より暴徒各地に蜂起したるを以て、駐劄軍隊は各地に分派せられて其掃討に從事せられたり、我駐劄軍隊の勞苦は眞に察すべきものありたる也、斯くして昨年に至り十三師團及其他の部隊は祖國に歸還することゝなり、其更代として驍勇嚴正の譽れ高き西島中將は師團長として第六師團の健兒を率いて入韓せられたり、當時尙は暴徒は各地に猖獗を極めつゝありしを以て其掃討に從事せられ着々其効蹟を擧げつゝあり、西島中將の名だたる雄將たるは今更に余輩の贊辭を俟たざるも日露戰役に於ける働きは世人の認むる所也、余輩が特に西島中將に敬意を拂ふは中將の嚴肅にして能く軍隊の風紀を弛緩せしめざることにあり、暴徒の討伐も亦通常の戰時と同一の行動を採らざる可らず、而も敵の散漫なる爲に勞多くして功少きの憾みあり、既に戰時の覺悟を以て之に對す從て平時兵營にあるとは自ら風紀の弛緩するは當然也、然るに西島中將は嚴令して其風紀を弛緩せしめず、爲に韓國人の我軍隊に信賴益々厚く帝國軍人の美風を遺憾なく發揮せり、花柳病の如きも第六師團には最も少しと聞く斯く第六師團の健兒が此美風を發揮せるは西島師團長の嚴正なる訓育に依る所多きが爲ならんか、然るに今や此好個の老將は後備に編入せらるゝに至る、余輩は愛惜の情禁ずる能はずと雖も軍規の命ずる所是非もなし、然れども余輩は戰術に長けたる雄將大迫中將を迎ふるを以て滿足せざる可らず、大迫中將の好將軍たることは余輩が玆に喋々せざるも、日淸日露の戰役に於て驍勇の名を轟かしたるは何人も能く知る所也、今や此名將は西島中將に代りて駐劄軍第六師團長として來任せられんとす、余輩は西島中將の去るを惜むと共に大迫中將の來任を歡迎するもの也。

東京電報

▲韓鐵と大屋長官

統監府鐵道廳長官大屋權平氏は往訪の記者に語つて曰く統監府は京元線百三十五哩半湖南線百七十四哩半を布設するに決し前者は一千七百萬圓後者は千五百万圓にして四五年間に開通せしむる計畫なり而して着手期は四十三年度にして豫算百萬圓を計上せり（三十一日夜着）

▲間島軍事的の價値

間島の軍事的價値は列國孰れも注目し獨米英露の各國新聞紙は誇大に是を觀察して附和雷同するも是れ全く其眞相を知らざるものなり則ち間島は戰術上何等の價値なく恰かも日本の飛騨の如く道路險惡泥濘脛を沒し砲車通せず又溪谷は多く大部隊の操縱に困難を極め展開運動に適せず故に讓步するも痛痒なしと參謀本部第一部長松石少將は語れり（同上）

▲東三省總督更迭

東三省總督錫良は四川總督に轉じ盛京將軍趙爾巽其前任たるべしとの說あり（同上）

▲墨西哥の大水害

墨西哥に大水害あり死者二千名損害額三千萬弗に達せりと（同上）

▲高商學生又々紛擾

高等商業學校生徒歸京後又々大運動を開始し小松原文相へ迫らんとす（同上）

▲日淸諸懸案の解決

三十一日北京に於て彼我全權委員の會見あり日淸懸案の全部を圓滿に解決せられたりと（一日着）

▲後藤遞相の渡韓

遞信大臣後藤新平男は韓國鐵道視察の爲め十月中旬に渡韓の事に決定せり遞相の此行は滿韓鐵道統一の準備として重要の視察と思惟せらる（同上）

▲上野驛の大椿事

三十一日夜上野停車場にて汽車大衝突あり衝突列車の汽鑵車は相方共粉碎せられ重輕傷者卅一名を出し大騷擾を惹起せり（同上）

▲應募五千六百倍

韓國銀行株式募集は非常の盛況を呈すべく豫想せられつゝあり締切は五千六百倍に達するならんか（同上）

雜報

●國債報償金の現狀

國際報償金に就きこれが取扱の頭目たる尹雄烈は過日英國領事に向ひベッセルの家族に對し償還を請求したる由なるが當時英國領事は日本理事廳の手を經て來るべしと返答したるも同時に該金はベッセルが大韓每日申報社長として預りたるものなれは同新聞社に請求することこそ當然の道にあらずやと注意を與へたる由なるが其後尹は理事廳に之れを請求したるに三浦理事官は證據書類を添へて提出すべしと命じたるより其儘立消へとなり居る由なるが聞くところに依れば尹はベッセルの死去に關して何等かの問題起るべしと豫想し一の茶番を演じたるものなりと尙は報償金の總高は三十餘萬圓にして現在の狀況左の如し

一、三万餘圓　每日申報社長ベッセル預分
一、十一万餘圓　尹雄烈同上
一、八万圓　皇城新聞同上
一、八千餘圓　帝國新聞社同上
一、四萬餘圓　普成社內國債報償金取扱所
一、五、六萬圓　地方に散在せる分

●通貨缺乏と商業不振

近時居留地商業の著しく不振を極めつゝあるは通貨の不足實に其重要原因の一なり現今地方農民の貧窮は顯著なる事實にして數百町步の田水田を有し地方の豪農と仰がるゝものと雖も高利を拂ひて僅々數十圓の金を日淸商人より借入るゝ有樣なるが是等は元來韓民の無貯蓄心に原由すと雖も通貨欠乏又其主要因にして通貨の欠乏は葉錢舊白銅の引揚げに代るべき新貨の普及せざるが爲めなり而して新貨の普及せざるは其額の不足と流通回數の少き爲めなるべく乃ち朝に農工銀行より出す紙幣に印しをなし置けば夕には其紙幣が金融組合に還り來るといふ如き有樣なるを以て之が救濟法として政府よりは種々の施設をなされつゝあるべきも邦人に在りても市街に在りて小作せしむる大農業家の入り込むのみに止まらず韓人と雜居して農業を營む中小農夫の移住を奬勵し以て韓人の貯蓄心を增さしめ貨幣の普及を圖らしむる一助をなすこそ得策なるべけれど地方事情に通せる某氏は語れり

●治道費の豫算に就て

韓國政府が治道費として四百萬圓の豫算を計上したる如く傳ふるものあるも右は何等かの誤聞なるべく日本政府より韓國政府へ年々貸與すべき金額中司法權委任の結果之に要せし金額は自然不用となりたるを以て之を最も喫緊の事業たる治道費に充て流用して急用を充たさんとの議は當局者の間に唱へられつゝあるも右は固より支途を定められたるものなるを以て流用に關しては一應日本政府の承諾を得ざるべからず從て之等は未だ內議あるに止まり事實となりて現はれたる問題にあらずと

●施政方針周知の方法

曩に內部に於て書記官及觀察使會議を開會せし際にも施政方針を地方人民に周知せしむる方法に就き種々協議する所ありたるが其後各道に於て或は郡守會議を開き又は觀察使自ら遊說を試みて之を曉諭し郡守は又面長等に說諭する所ありたる爲め民心鎭撫、地方稅實施等に對し便宜を得る所少なからざりしが既に之等の方法を終りしは京畿、黃海、平南道等にして他道は目下開催若くは開催に着手中なりといふ

●韓南地方暴徒大掃蕩

暴徒の討伐は絕へず行はれ昨今殆んど平定に歸したるも只全羅南道は其出沒常に絕へず多少不安の狀態を維持しつゝあるを以て今回我軍隊にては從來と多少趣きを異にしたる計畫を樹て韓南駐屯軍隊は昨今既に機動演習として全羅南道に出動を開始し結局海陸聯合にて暴徒の大掃蕩を行ひ充分の功果を收むべく着手せられたり多分來月十日前後迄には不穩の狀態を芟除するを得べし

●韓國武官學生の渡日

韓國武官學生の養成に就ては過日來韓政府より我陸軍省間に交涉中なりしが愈々四十二名を中央幼年學校に入學せしむる事に決定し明三日午前九時南大門發列車にて小倉步兵大尉及下士二名引率して渡日の途に就く由而して我中央幼年學校には特に韓國留學生部を設け小倉大尉も同教官に任命せらるゝ筈なりと

●各道の郡守會議開催

各道に於ては過般開催したる道書記官及觀察使會議の會議事項に準據し郡守會議を開き將來施政の計畫等に就き會議討究する筈にて既に京畿、黃海、平南の三道は終了し其他は目下開催中のもの及不日開催の筈なるが是れを以て地方民心の鎭撫、地方稅實施等に就き多大の便宜を與へ其效果蓋し鮮少ならざるべし

●警察部長會議の開會

警察部長會議は愈々來る十六日より開催の筈なるを以て內部警務局にては諸般の會議事項に就き調查中なる一方各警察部長へ宛地方の狀況乃至慣習等に關係する提出事項に就きては豫め調查し置くべき旨通牒を發したりと尙同會議には檢事局より國分檢事總長臨席の上司法警察に關して會議すと

●親衛府の招待宴　親衛府長官李秉武氏は今二日午後六時より京城ホテルに晚餐會を開き大久保軍司令官及第六師團參謀長憲兵隊長及親衛府武官五十餘名を招待する由

●商務組合の役員　大韓商務組合にては去三十日左の通り部役員の改定を爲せり
部長　李學宰　副司務長　李瑗宰
司務長　尹進學　副務長　朴熹華

●度支部會計檢查　會計檢查官落合芳藏氏は一日より度支部の會計檢查を開始せり

●各學校授業開始　暑中休暇中なりし日韓各學校は昨一日より授業を開始したり

●判事任命　三十日付にて左の通り任命せらる
任判事敍奏任官四等　水野重功
同　里見寬二

●三角航路と漁業

北韓の漁業が有望なる割合に邦人の着手せるもの少きは人の知る所なるが之れ全く運送法の備はらざるが爲めにして過般羅南附近にて一尺より三尺に至る鱈五千尾を漁獲せし韓人あり之を買入し日本仲買は其處置に窮し一尾三錢の低價を呼びしも大部分は腐敗せしめたり又搦津附近には鰤の游泳盛んにして九月の鰤十月の鮭共に有望なるも現今の狀態には其處置に苦しむ有樣なるが愈々三角航路開けて冰藏庫の設備成らば豐富なる北韓の鮮魚は京都大坂人士の食膳に上すを得るに至るべく北韓漁業界の爲め喜ぶべき次第といふべし

●二百十日の各地天候

昨日滿州附近にありし高氣壓は著く發達して七百六十粍以上を示し北西の微風を送り氣溫頓に下降して冷氣を感ずるに至る今朝午前六時木浦曇天の外は一般に晴なれば尙數日は好天氣持續すべし（一日京城測候所）

地名	天候	氣溫
京城	晴	五十九度
釜山	晴	七十度
大邱	快晴	六十三度
木浦	曇	六十八度
仁川	晴	六十六度
平壤	晴	五十七度
龍岩浦	快	五十五度
元山	快晴	五十七度
城津	快晴	五十二度
大連	快晴	六十六度
營口	晴	五十九度
奉天	快晴	五十度
長春	快晴	五十度

●外波海軍大佐の感謝

愛國婦人會韓國本部が韓國沿岸港灣に入港碇泊する帝國軍艦乘組員に對し各委員部と共に種々なる方法に依り同情慰藉する趣は既報の如くなるが右に對し外波海軍大佐は此程兒玉本部副長宛右は單に下士卒の慰藉のみに止まらず我軍艦紀律維持上に於ても尠からざる援助となるべきに依り特に海軍大臣並に韓國沿岸警備の任務を有する第二艦隊司令長官宛報告したる旨厚く感謝の意を表し來れりと

●忠南公州地方の農況

最近其筋に到着したる公州地方の農作狀況を聞くに曩には旱天連日に亘りて農家悲慘に陷り地方金融及徵稅上にも亦た非常なる杞憂を抱き居りしが爾來屢々降雨あり水田水豐かにして忠淸北道の內忠州、淸風、提川、永春、丹陽、忠淸南道の內恩津、魯城、牙山、溫陽の各地方を除く外殆んど全部插秧を終れり殊に插秧後成育充分にして一般農民回生の狀あり今後天候順を持續するに於ては蓋し本年も豐饒ならんと

●米國總領事の出發

京城駐在米國總領事サンモンス氏は一日午前發の急行にて日本經由歸米の途に上られたり見送りの人々には統監代理佐竹秘書官、軍司令官代理十時副官、石塚總務長官、事務取扱小松外事課長、外波海軍武官、渡邊大審院長、若林警視總監、各外國領事、內外新聞記者及紳士貴夫人等百餘名なりし因にサンモンス氏今回の歸米は六ヶ月間の休暇を得たるものにて追ては再び當地へ歸任せらるべしと

●北韓及び間島の凶作

咸鏡北道中井內部々長より昨日內部大臣に達したる電報に曰く咸北衆の禍害地に出張したる金事務官の復命に依れば被害は豫想より甚しく收穫皆無なるべき地多し又間島も粟四割以上減收と推定の旨齋藤大佐より回答あり本道人民の常食を供給する道なし右取敢へず報告す

●警備電話と道路改修

度支部にては曩に平安北道の警備電話を移轉すべき筈にて豫備金より十三萬一千百六十五圓を支出することに決定し居りたるも今般是れを見合したるに依り此金を警備電話の架設費として七萬圓、大邱道路の改修費に三万三千百六十五圓を振替へ支出すべく目下協議中なりと

●全南地方棉花の豐作

本年全南棉花栽培場にては米國種陸地棉及在來種子を四百町步に播種したるに春時旱天打續きし爲め發芽不良にして大に悲觀せしめしも其後天候回復漸次順況に向ひし爲め先づ豐作の見込あるに至れるが明年度には播種面積を增加し千町步位となすべき筈

●明太魚組合々同進捗

西川氏等主唱者となり京城明太魚組合を合同せしめ北韓より來る同魚の販賣を獨占せんとの計畫は其後着々進捗中なりと聞けり

●平安北道方面大水害

平安北道寧邊郡、龜城郡、泰川郡、博川郡地方に大水害あり旨同道書記官より內部へ電報ありたり

●軍司令官の統監訪問

駐韓軍司令官大久保大將は昨日午前十時統監を訪問し匪徒剿討に關する打合を爲せり

●拔萃通信の發刊　東洋拔萃通信生る記事頗る豐富にして体裁又整然たり八月三十一日以來大和町一丁目の同社にて發刊

●豫備將校の勸誘　過日軍部解散の際豫備となりし將校中參領鄭寅植外十四名は工業會を組織し政府より補助金を得る計畫中

●仁川民會の召集　仁川民團にては來る十日頃までに四十一年度豫算報告の件其他の件に就き民會を開く筈なりと云ふ

●義和宮顧問罷免　義親王の顧問たりし佐藤寬氏は今回都合に依り同宮顧問を免ぜられ全く關係を絕つ事となりたりと

●燈臺巡視船出帆　過日來仁川港に碇泊中の光濟號は昨日午前鴨綠口方面に向ふ

●佛總領事の訪問　佛國總領事ベラル氏は一日午前十時小松外務部長代理を訪問す

●八重山艦の入港　一昨日仁川に入港

●貴紙平民文庫欄投書に就て

昨一日發行貴紙中民文庫欄に「ソンタク令孃の送別會を開いた席上で某高等官の演說」云々の投書あり、當夜演說をしたるは獨逸總領事と拙者のみに有之候處拙者に於ては別段同孃を過賞したる次第には無之唯々國外萬里の異鄉に人生の盛時二十有餘年の歲月を過ごし今や老軀耿々、故國に還へるの衷情を察し聊か別辭を述ぶるの序僅かに事實を擧げて人の美を濟さんとの寸志を表したるのみ、投書家の之を批判せらるゝは御隨意なれども、遠來の外人殊にソンタク孃の如き老女に對しては一層の寬量を以て其の德を稱するを大國民の面目ともすべし、投書なれども既に記者の採錄せられたるものに附一言申述候匆々不備

九月一日　小松綠

京城新報記者御中

公人私人

▲石川啓（熊本縣事務官）　一日仁川へ向ふ
▲和智熊太（同縣技師）　同上
▲緒方二三（同縣水產組合理事）　同上
▲若宮貞夫（遞信書記官）　同日仁川へ
▲河野穗（平壤區裁判所檢事）　卅一日入京
▲淺岡重習（北韓新報社長）　一日歸社す
▲品治隆（讃岐高松辯護士）　一日歸國す

近事片々

▲露國●は殖民政策を更に一新し東亞の開拓を速成するの廟議決せりとの說は事實か
▲滿州●近接の地に大都府建設の計畫も決定せりとの說有哈爾賓より更に南進するか
▲輓近●露國の蒙古經營は頗る着目するの價あり何れの點より見るも其經營頗る偉也
▲或者●は露國殖民の發展は勢い隣境殖民との爭ひ起らんかと杞憂す併し是れ眞に杞憂
▲隣境●に於ける日本の殖民は殆ど皆無に國に於てすら僅々拾餘萬に過ぎず甚だ慨し
▲三十●年後には日本の人口は七千万の多きに達せむ從て米價は今日に倍加すべしと
▲左も●あらむ人口增殖するも土地擴張せす移民政策は何よりも急務然るに政府冷淡
▲當然●移民を入るべき韓國にさへ之を入るゝ能はず隣境殖民策に顧て恥る所なきか
▲年々●非常の速度を以て增殖する帝國人口排出の策は帝國第一急務緩漫慨すべき也
▲是を●滿韓に移殖する決して侵略主義に非ず眞個正當の自衛策也列國夙に之を諒す
▲日淸●日露の兩戰何の爲ぞ韓國經營何の爲ぞ統監府何の爲にある畢竟帝國自衛の爲
▲然る●を韓國經營も統監府の設置も單に韓國の指導保護をなすに止ると思ふ迂濶者
▲斯る●輩の爲す仕事は從て其緩急を誤り緩を先にし急を後にするが如き痴態を演ず
▲國民●を外にしては國家もなければ政府もなし此貴重の國民を度外する政は失敗也
▲往々●此見易き道理を遺却し官憲のみにて事をなさんとするが故に屢々失敗を招く
▲横綱●常陸山曰く水戶で豪いのは鹿島黃門樣藤田東湖也私は此三つを本尊となす
▲併し●近來の水戶はカラ意氣地がなくて斷しにならぬと慨す彼は聊か舊水戶氣風有
▲米國●にてルーズベルト氏と握手の時此男中々氣の滿ちた火の樣な人也と思へりと
▲日本●流とは流義は異るも矢張武士道の人也豪傑道と相撲道とは同一也と氣を吐く
▲流石●力士界の覇者たり一技に秀でたるものには一種の感得あり常陸も亦斯道の傑
▲れ釋●迦樣の生地たる印度に近きジャワスマトラ島の蓮花は輪の周圍一丈餘ありと
▲花輪●の目方十八貫目ありと斯る大蓮ならば蓮華往生も樂々と横臥しつゝ出來る也

東京電報

▲八月下旬輸出超過　八月下旬の輸出超過は二百四十六萬四千圓也

▲侍從武官長伏奏　侍從武官長中村[illegible]東京出發を三日に延期し本日參內拜謁仰付られたり

●愛國婦人會と博覽會

愛國婦人會にては明年五月英國倫敦に於て[illegible]にては本國支部と情況を異にするものあるに依り韓國に於ける特種の事業及成蹟表を[illegible]に足るべき寫眞
一支部授產場に於ける遺族慶兵及本會事業[illegible]狀況及
一本會事業に關する各種統計

●配達出拂　午後七時

▲韓太子函根避暑　韓太子は日曜日函根に避暑し來る七日歸京の筈

▲宇佐川總裁參內　宇佐川東拓總裁の委細を陛下に伏奏する筈也（一日發）

を說明紹介する爲め各支部より左記の各項を徵し審査の上出品する筈なるが韓國本部

一支部授產場の狀態又は三十七八年戰役中從事する人員、之れが爲め間接に救護を受くる實況等の說明書

一獻軍、慰問等の狀態にして衆目を惹起す



●東拓社內の怪聞

▲賄賂收受の風說あり

東洋拓殖會社の總裁以下社員の總てが算盤の彈けぬ代物なるに付け入り組織的猾策を弄して己れが食殿寺建立の大檀那となさんづ肝膽を碎けるものも尠なからざる内に名さへ細野太と言へるは樺太廳より團体韓國移民の認可を得たりとて之を種子に同會社に對し保護方願出でたるも未だ移住農民規則草案中の事とて一般取扱の標準なければ同規則發布の後ならではと刎ねられたるを何ら胡魔化してか移住豫定地として土地買入れに付生する不足分に對し補助を受くるの承認を得たるものと見へ東大門外三里ツンバとか云へる所の韓人所有の土地測量に從事したるも元來此地は所謂飛地にして纏りたる地積にあらざるのみならず狡猾なる韓人の事とて下等地のみを撰びたることなれば愈々實地農業經營上幾多の支障を生ずべきは甚だ睹易き理にして且つ其の代價の如きもドウ高く見ても一斗落五六圓に過ぎざるものを會社へは十五六圓も附け出し所謂補助金を以て土地を買入るゝに止まらず尚ほ其の鞘をも詐取せんと企て居るは明瞭なるべきを此程該地調査の爲派出せられたる社員高橋某外一名は細野の申請を正當なる者と認むる旨の報告を爲し且つ會社詮議の意向をも漏したるより細野は得たり賢しと他の個所をも測量中なり杯與言しやかに云ひ觸らせるものあるも法學士連が目白押しする程居る會社が農民保護規則草案の脫稿さへせざる今日如何なる事情ありとも斯る曲事を行ふべしとは信せられず同會社重役連は機敏ならざる事或は野狗馬の如からんも多く清廉潔白加ふるに多額の俸給を得て金錢に不足なき士のみなれば風說の如き賄賂詐託の行はれざるは明なり要するに何者かゞ爲めにする所ありての流說と見る方至當なるべきか

●仁川本町の血雨

▲撲られて眼球飛出す

一昨日午後九時頃一人の男仁川警察署に駈け込み只今本町三丁目料理店鬼笑亭に大喧嘩ありと訴へ出でしかば當直巡查は事態容易ならずとして早速現場に驅け附けしに加害者は仁川港碇泊中の漁船乘り山本國松（二六）なる者にして此時既に**遁走**し姿を隱し居たるが被害者は同じく船乘業小島某と云へるものにして顏面を撲ぐられし爲め兩方の眼球飛出で左手に重傷を負ひ其處等一面は**血の海**と變じ居たれば早速高木病院に收容し應急手當を加へ事實の取調べを爲せしに加害者山本は小島の**朋輩**にして一昨日は盆會の事なればとて兩人してシタヽカ飲酒し散步中些細なる事より口論を爲せしが小島は前記鬼笑亭に入り再び飲酒せしを山本は氣に喰はぬ事ありとて遊箱の蓋を持つて戶外に待ち受け居りしを神ならぬ小島は何心なく便所に行かんとて戶外に立出づるや矢庭に**箱蓋**を以て撲ぐり据へ遂に重傷を負はせて姿を隱したるものにして目下山本の所在搜索中なりと

●判事と通譯拘引

慶北安東區裁判所判事尹某、通譯官補崔某の兩名は收賄罪にて拘引せられたるが今其罪狀を聞くに某と某との間に賄罪事件あり某は通譯官補に賴みて勝訴たらんと運動せるに通譯官補崔は其旨尹判事に賴みたり元來事件は賴みたる方に正當の理あり賴まぬ迄も當然勝訴に歸すべきものなれば裁判の結果賴みたる韓人の勝訴となれり該韓人は賴みたる故に勝ちたるものと思ひ崔に金五十圓を贈る尹判事は幾分かの金を崔が收賄したりと聞き崔に分前を強請したるに崔は五十圓收賄したりとは云はず二十圓貰たればとてうち十圓を尹判事に分配したりと朝鮮人の官吏程きたなきものはなし

●醉人同志の格鬪

島根縣邇摩郡馬路村二七七番地當時旭町二丁目中村ごく方止宿左官職松浦龍吉（三十）廣島縣廣島市新町二丁目三八番地當時鐘路東洋保險會社內大工職歌河新藏（三十）の兩人は豫て知り合の仲なるが去る三十一日午後十時頃途中にて出會し久し振りに一盃傾けんとて相談の上南大門通り三丁目裏通り飲食店橋亭へ押し上り飲酒せしが大分夜も更けたから引擧げんと松浦が云ひ出せしに歌河は尚ほ繼けんを主張し彼是云ふ内酩酊せる事とて爭論を始め松浦は有り合せたる椅子を振り上げ歌河を殴打せしに同人も之に應じ茲に一場の立廻りを始め同家の椅子二個を破損せしより此の旨其筋へ訴へ出でられ結極破損椅子二脚の修繕を松浦歌河兩人に分擔せしめて放還せらる

●舊盆の新町遊廓

一昨盂蘭盆會は紋日にも拘らず適ヾに佛據の日とて新町も至つて寂寞を感じ遊客數僅かに百一人此の遊興費四百七十六圓五十七錢にして內揚高の多きは井門の十一人に對する七十圓三十一錢にして客數の多かりしは第一樓支店の十五人と五十二圓三十五錢なりと

●窃盜の裁判言渡し

八月廿四日の本紙上に元郵便局員の窃盜と題して報じたる大阪市西區新町通り二丁目三十三番地平民川崎正松（三九）が開城郵便局に忍び入り二百五十圓在中の行嚢を窃取したる件は當理事廳に於て審理中の處昨日窃盜罪に依り懲役三月に處せられたり尚は愛媛縣溫泉郡[illegible]濱

●出前持ち撲らる

當地長谷川町二丁目十六番戶飲食店大西秀隆（二九）は一昨三十一日午前一時三十分頃長谷川町二丁目飲食店だるま亭より溫飩の注文を受け之を持ち行く途中米倉町三十統居住韓人車夫權具基（二十二）なる者に出會ひしに權は何等の咎へもなく溫飩の蓋を取りたれば大西は其不都合を責めたるに權は其蓋を以て同人の面部を毆打したる旨訴へ出しが別に負傷せるにもあらざれば其儘泣寢入り

當地長谷川町二丁目村一九七四番地黑田芳松（二四）が八月十九日背坡居住武內某の縮緬兵子帶一筋及び銘仙絣單物一枚を橫領せし件も當理事廳に於て審理中の處昨日懲役二月に處せられたり

●料理店の廢業

京城山下町の五月、京城柳町鳥繁、龍山本町三丁目の阿波山樓は何れも八月卅一日限り廢業屆出づ

●藝妓の廢業

龍山老松町竹の家の藝妓助六は何んに感ずつてか八月卅一日限り廢業東京は京橋の實家へれつ母さん戾つたツ

●取消

本月十四日發行京城新報第百八十七號に財務主事の詐欺との記事掲載有之候處事實無根にして中傷に出でたるものと存じ候に付至急御取消相成度此段申込候也

隆熙三年八月二十七日　智島財務署在勤財務署主事　尹光義

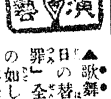
京城新報社御中

●永樂亭の慈善演藝

▲明三日より三日間開催

明三日より赤門前永樂亭に於て三日間大阪大火義捐金募集の目的を以て諸藝大寄せを爲す由にて初日の番組は左の如し

落語（大入帳）泥のかわせ（於玉）加賀見山又助住家（若松）三味（吉評、劍舞（一樂）奴引拔月の夜は（しづ子）尺八（〇〇）二〇加（つるが若太夫）一力茶屋場（三遊亭百朝）朝顏日記宿屋乃段（木廣亭三八、三味、吉評）八雲（ふじ子）川竹引拔わめの夜（花元澤）琵琶（本六井上）新內明からす（つるが連仲はな子、ほんだ、歌、糸樂）琴（南山濱若太夫、三味淺末吉）浪花ぶし義士銘々傳（廣澤座長圓朝）



演藝

▲●●●歌舞伎座　彰藥隊一座本日の替りは幽芳氏作「己が罪」全八場にして役割は左の如し

櫻戶夫人たまき（西井）子供長次（仁科）乳母れみち（桂木）作兵衞娘みの、醫師松元（河野）和田作兵衞（角村）女中たよし、巡查川原妻みよ（中村）車夫長吉、和田玉太郎、櫻戶正弘、春子（大和）家令吉田大助（松村）漁夫爲吉（小谷）若者文太（天草）若者重吉（有村）醫師飛田清三（北村）子供三郎（木下）子守みや（三島）村長矢田吾平（美崎）子爵櫻戶隆弘（篠崎）塚口虔三（愛澤）巡查川原繁（高島）若者吉太郎（忍）

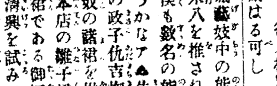
吉凶鏡

本町五丁目　三一館判斷

九月二日五黃舊七月十八日赤口乙丑さるく

△一白●不如意の日なり旅行凶金品授受に間違起り易し△二黑●長上より高壓屈伏せらるゝ事あり其外大瑕なき日とす△三碧●兄弟親戚間爭論を開く事あり鼠賊遺失留意すべし△四綠●色情消害口腹の禍を戒しむ其他瑕瑾失錯多きにはず△五黃●創始改縱の事總じて惡し利權の上に眠らざるべからざるあり△六白●不利不振の日なり家畜小兒從者の身上に留意すべし損害又は心痛起らんとす△七赤●顯榮美達の日なり總體に就て吉殊に入學名弘移轉舟下等よろし△八白●感情愛情に激し意志を狂ぐるか又は意志の中正を失することあり頭腦冷靜たるべし△九紫●散財破財を戒しむ鄕里又は地方に轉住旅行は吉とす

右は槪括的判斷なり各人格別に付ては直接同館の鑑定を請はる可し



◀平民文庫▶

▲京城藝妓中の能筆家に開進亭の米八を推された方があつたが僕も數名の能筆妓を紹介しようかなア▲先づ第一井門本店の政子仇吉翔翠樓の時奴江戶奴の諸君を推す舞妓では井門本店の雛子君翔翠樓の笑太郎君である御疑ひの方は一夜の清興を試みて目前に揮毫せしめて見給へ實に驚く計りである（七夕）●●▲京城中學校に電話で敎員の姓名を尋ねた處が判らぬから民團役所へ聞けと一敎員が云つた何故自分の學校の敎員の名が判らぬのだ何故公示されぬのだ實に不親切不德義な奴ではないか（照義門人）●●●▲長谷川町の末廣に義太夫の稽古所が出來たのでウツカリ通ると動物園が出來たのかと思はれる（巴）●▲南山町入船と云ふ待合では云々の投書ば聊か營業を妨害する爲めの故意のものと思はるゝ條あるを以て沒とす（係）▲銅峴分署の狼狽なる投書も事實猶は不明の點あるを以て沒とす而して此の事件は投書家よりは拙者に於て聞き込みたる方早く且つ具体的なるも大事件にあらず（係）●▲倘州農工銀行事件に就き其支配人たりし武田氏は僕の縣知であるが凡そ世の中に氏程不幸な目に遇ふたる人もあるまい明治聖代の世倘今回の如き沒常識な事があるものであらふか其の筋は速に事体を明かにし世の疑惑を釋かれんことを警察部長殿へ（同情子）▲花月のれち●●やらの兩橋へは松茸のジユクに目鼻をつけた樣だ其の庇髮が恰度蓋に相當する●●君江は足袋のコハゼに其の儘翔翠の十九江の口元は椎茸の樣●●●花月のれふくは何んとなく惡党染みてる其の爲でもあるまいが彼れにかゝると手疵を負ふ（紅）▲京城日報の紀念號は美事な出來だ體裁に於て色刷に於て大岡さんの大成功だ美事だ立派だ實に奇麗だ美しい統監府を伯父さんに持つてる丈けある記者さん妬けたゞらう（ほへご）●●▲餘計な世話だ腹の立つ（小僧）

△拙い一口噺▽　獨立隱士

讀者『伊吹山が崩れたので子供が嬉しがつて居る、其はもぐさが採れぬから……』と謂ふ意味の一口噺が新聞に載て居るがアマリ上等の出來でも無いね」投書家「それはきう（灸）を作へたからです」

●天氣豫報（自一日午後六時至二日午後六時）

北の風晴れ

卅一日（華氏）　最高溫度　七九、七　最低溫度　六七、六

各種 洗濯石鹸

專門製造販賣

用途

陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道、湯屋、散髪、諸工業用

京城旭町二丁目
(電話九七三番)

朝日石鹸製造所

●正味十六オンスの容量あるは全國輸入の多數ミルク中鷲印を措て他に需むる能はず

▲無料紹介欄▼

人事部

龍山電話格安に至急譲渡したし 氏名在社(四三三)

●家庭の仲働 配偶者ある二十六の女清浄なる家庭の仲働又は針女に雇はれたし但給料八九圓を望む 氏名在社(四二五)

●教育ある男 普通教育ある二十八の男一定相當の職業を授けらるゝ仁人君子に遭逢したし但會計事務簿記方などに雇らるれば尤妙 氏名在社(四二八)

●求人 外勤事務員採用午後四時より來談あれ 京城相生町一六南門館 波多野

●求職 年廿五内地商業學校教員奉職中の者清語及商科一般の智識あり會社商店若くば官廳に雇はれたし 氏名在社(四二七)

●下女入用 廿歳前後の下女入用希望者は本人直接來談あれ 龍山停車場前大陽館

●求職 多年小學教育に從事せし者至急相當の職業を求む但給料多きを望まず 氏名在社(四三二)

物件部

●賣藥局生 年廿東京に於て經驗有大和町一の八浪花湯不治元迄御一報次第参上

●求宅地 官吏むき家屋建築に付き格安の宅地二三十坪買入たし 京城旭町一丁目五十三ノ四 安藤

廣告

乳母入用

京城本町五丁目
大上商店
電話二五一番

平壤要覽 全 定價壹圓廿錢

平壤の事情に精通せんとせば本書を讀め本書の表紙はクロースにして美麗を極め名所舊蹟はコロタイプ版にして鮮明なり其記事は確實にして重要事項を網羅せり

發賣元 平壤大和町 白川活版所 電話三四四番

折箱製造元

京城明治町一丁目五十番戸
漢城病院下横へ入ル
箱信事 鳥山商店

特選御用 牛乳 荒井牧場

廣告

右本人の望に依り解傭致候間以後弊商會に關係無之此段廣告候也

松田慶之助

大和商會印刷部

營業科目

活版、銅版、石版

各種印刷

帳簿裝釘、書籍

製本及ビ印刷

諸材料販賣

日韓印刷株式會社

遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候

本社 京城明治町三丁目 電話三二三番

出張所 東京麹町區麹町八丁目十九番地 電話番町二九〇番

謹告

殘暑の候各位益々御清祥奉賀候弊店儀豫而店舗改築中の處今般落成仕候に付九月一日より開店營業仕り從來の御愛顧に酬ん爲め一層業務擴張益々確實なる正札を以て精々安價に且つ丁寧と精實に奮勵仕候間倍舊の御引立を給はり御尊來被成下度謹而奉願上候也

京城本町四丁目
君ヶ代足袋發賣元
山口呉服店
電話九番

京麗史

第二冊特價發賣

全三册 總クロース大判金文字入紙數二千數百頁
全部既製發賣
定價金九圓郵稅金四十五錢
特價七圓五十錢 前金一時拂に限り
郵稅四十五錢

●申込期限九月十日限 期限後は斷然定價に復す

高麗史は世人夙に知る如く韓國有名の歷史にして今世に於て同書の價値は幾百圓を投ずるも手にする不能全く絕版の姿にして韓半島を研究せんとするもの丶尤も遺憾とする所なりしが今回東京國書刊行會に於て非賣品のものを特に二百部限り增刊致させ右部數を限り弊房に於て豫約發賣仕り候に付賣り切れざる內速に御講求相成度候此の書の如き珍書を廉價にて手にするは實に千載の一隅又なき好機會此の機を逸せず直に申込あれ

豫約發賣所 京城本町二丁目 振替口座(九〇九) 日韓書房

龍山申込所 龍山新市街 龍山堂

小生儀從來大和商會印刷部に鞅掌罷在候處別業も有之不才到底兩全の力及難く候條今回合意の上同商會を辭し專心自宅本業に從事可仕候間倍舊の御引立相願度此段謹告候也

京城本町七丁目
質商及用達業 松田慶之助

大上商店

特約販賣 自製

漬物、味噌製造元
醬油

京城本町五丁目

大上商店

和洋酒、◎精酎、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候
(電話二五一番)

朝鮮古書刊行

朝鮮研究者の福音

朝鮮開發者の資料

◎朝鮮の古書珍本を最も安價に手にせんとする者は本會に來れ

◎會稱統監大久保軍司令官初め日韓名士續々豫約申込まれつゝあり宮內府內部、學部初め日韓諸官衙は多くの部數を續々申込れつゝあり

◎躊躇して千歲の好機を逸する勿れ

◎本年七月より四十四年九月に至る二ヶ年間每月七百頁以上の洋裝美本を一册づゝ發刊す●豫約金は每月三圓五十錢とす●豫約申込期限は九月限とす

●詳細は郵券二錢を送れ

發行所 京城本町九丁目(朝鮮雜誌社內) 朝鮮古書刊行會

豫約申込取次所

京城 日韓書房
京城 日報社
東京 文館
大阪 岡吉文館
大韓書林

食道樂

さかね家

壽町二丁目 ● 電話九四四

些も猥がましき分子を含まず
調理と設備の氣の利いた所を命として賣出申候

高尙にして而かも華美に流れず
紳士淑女を俟つに恥しからぬも極めて質素を旨とし
萬事御手輕を專一といたし候

尤も趣味深き娛樂場として
御心置なく一日の御淸遊に適すべく風呂及び娛樂器の備をいたし候

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す弊場夙に此に留意し好良の食料を給す

京城本町五丁目(電四七番)
販賣元 松尾支店
京城東四軒町(電七五番)
搾取所 松尾牧場

●弊場搾取の牛乳を受飲せらるゝ御諸君は最も滋養豐富風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし



明治廿年七月創立●
資本金一千萬圓●

東京火災運送海上保險株式會社

京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九番

事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

●京城市內の御注文は遠近に不拘早速持參可仕候●

概略營業品目

和洋帳簿諸紙類
文房具學校用品
卷紙封筒手帳類
帽子洋傘クツ鞄
洋服附屬品一式
メリヤス類一式
毛布膝掛馬車掛
石鹸香水齒磨類
タオル、ハンカチフ
手袋沓下袋物類

正札 ㊀ 引なし

官衙、陸軍銀行、會社御用達

京城本町四丁目

池田長兵衛

電話二百〇六番

和洋雜貨卸小賣商

●地方よりの御注文は代金引換小包にて發送仕候●

待春日 合のしく

日本郵船株式會社仁川出帆廣告 電話十番

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 電話三九番 郡回漕店

釜山長崎門司神戶行 山東丸 九月二十六日午後三時出

大連、太沽、牛莊行 高砂丸 九月 日正午時出

大連、大沽、牛莊行 山東丸 九月十四日午前四時出

大連、太沽、牛莊行 酒田丸 九月三十日正午時出

釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 立神丸 九月八日午後出

御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

易斷觀 相敎授 館主 三一館 土御門派大陰陽師

京城本町五丁目

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金五十錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾壹錢
●廣告料 ▲普通活字十九字詰一行一回五十錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 久納一郎
發行所 京城新報社